

平成 29 年度大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	広島大学	タイプ・国名	A・インド
事 業 名	先端技術を社会実装するイノベーション人材養成のための国際リネージュ型学位プログラム		
海外の相手大学	インド工科大学デリー校 (IIT-D)、インド工科大学ムンバイ校 (IIT-B)、インド技術科学大学シブプール校 (IIST-S)、ビルラ技術科学大学ピラニ校 (BITS-P)、インド中央電子工学研究所 (CSIR-CEERI)、インド経営大学院アーメダバード校 (IIM-A)		

〔評価コメント〕

本事業計画は、貴学がもつ国際大学間コンソーシアムやインド域外の大学との連携も視野に入れながら、イノベーション人材養成という具体的で明確な目標を持つプログラムである。相手大学との連携課題として、貴学の研究教育実績の強みとインド側のニーズを勘案し、「スマートインフラ整備」「新エネルギー」「環境持続性」という3つの技術複合領域に焦点を当てている点も、今回の大学の世界展開力強化事業の特徴である実学を重視するという趣旨と合致する。プログラムに学生の主体性を重視した学生提案型支援や起業コンテストなどを盛り込み、9項目からなる具体的なグローバル・コンピテンシーを明確にした上で、その養成を目指そうとしている点も評価できる。

また、プログラムの実践にあたっては、アカデミックカレンダーが日本とは大きく異なる相手大学との間ではきめ細やかな調整が必要不可欠であるが、貴学が既に持っている国際プログラムを活用し、そのずれを逆に活用する形で調整しようとしている点や、質の保証として PDCA サイクルに沿った客観的評価プロセスを明確にしている点にも工夫がみられる。

一方、国際リネージュ学位プログラム(ILDP)の構築にあたっては、単位互換及びセメスターの違いをどう考慮するかという実施可能性上の問題があり、大学間の調整は引き続き重要な課題である。将来的には、対象国、交流する相手大学・対象分野を拡大したモデルへの展開も計画されており、事業計画調書にも記述されており、中長期的なビジョンのもと、着実な計画の実施が期待される。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。